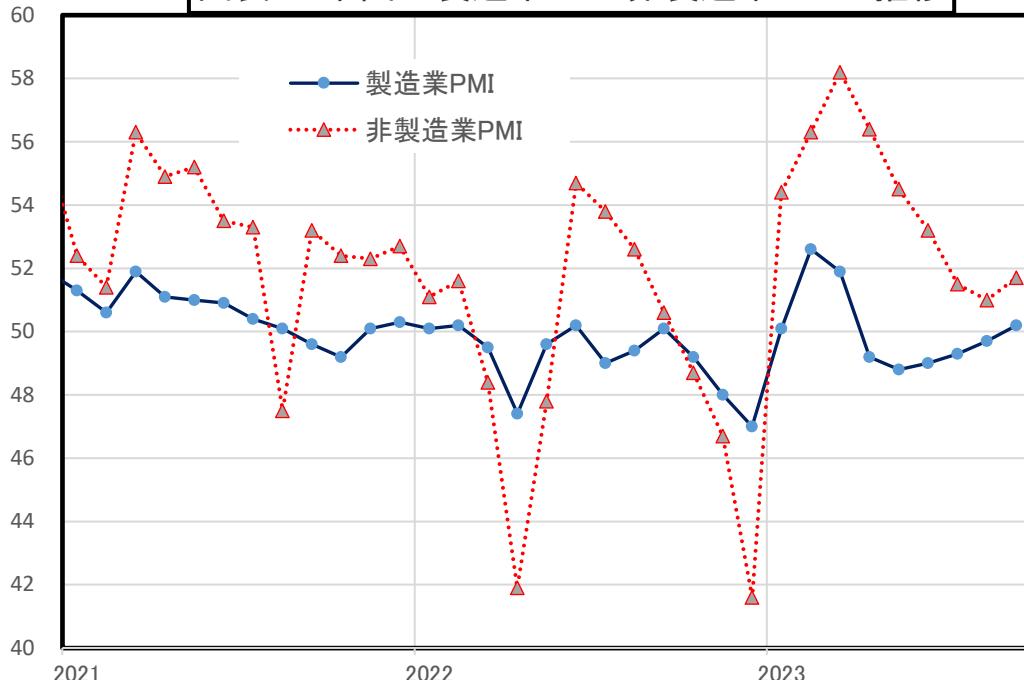


(中国) 9月の企業景況感は改善へ

9月30日、中国国家統計局が9月の中国の購買担当者景気指数(PMI)を発表した。それによると、9月の製造業PMIは50.2と8月(49.7)から上昇し、6か月ぶりに判断基準となる50を上回った(図表1)。PMIの構成指標を確認しても、生産と出荷価格はそれぞれ52.7、53.5といずれも8月(51.9、52.0)から上昇した。また新規受注も50.5と2か月連続で50を維持した。需要は依然弱含み状態にあるものの、改善の動きが出始めているとみられる。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



(資料)中国国家統計局、Windより作成、直近は23年9月。

ただし、企業規模別にみると、大手企業は51.6と引き続き50を上回っている一方で、中堅企業、零細企業はそれぞれ49.6、48.0と50を下回っており、芳しくない状況が継続している。

また、9月の非製造業PMIも51.7と8月(51.0)から小幅ながら上昇した。業種別では、豪雨などの異常気象による影響が和らいだこともあり、建設業が56.2と8月(53.8)から大きく上昇したほか、サービス業PMIも50.9と8月(50.5)から小幅ながら改善した。

このように9月の企業景況感は一定の改善を示した。その要因の一つとしては、政府による経済対策の効果が現れつつあることが挙げられる。先行きについても、政策効果により企業の景況感は改善の動きが強まる見込まれる。今後は、指数が依然50を下回っている中小企業の景況感の改善が注目点となりそうである。